

竹早入試 2022 年度速報＜男子＞

まず、受験生は1階から3階考査室に誘導される。保護者も3階の待機場所に移動。

NEW 保護者アンケート

A5程度用の紙にテーマに従ってアンケートを書く。項目は、①受験番号、②受験者氏名、③同行保護者氏名と続柄を書く。さらに下のスペースに以下のテーマに従って5行程度の回答を記入。

④：保護者から見て、子どもが自ら進んで行う活動は何か

⑤：保護者が声かけをしたら行う活動は何か

全部で5つを同じ大きさの枠に書く。④・⑤は5行程度記入できるとのことだが、①～③もすべて同じ大きさの枠なので名前を書くには大きすぎるスペースと感じたとのこと。上記の理由より、④・⑤は一言程度で答えるべきか、文章にすべきか、迷う。記入時間は、行動観察考査がおこなわれている最中なので、20分程度。

行動観察 ゲーム3種類。課題1と2はお話をしてはいけない。

課題1.宝石ゲーム

椅子に座ってプラスチックの宝石をスプーンで回していく遊び。5人グループが輪になるように椅子に座り、1人1本のプラスチック製のスプーンが配られる。先頭のお友だちは机に置いてあるお椀の中からプラスチック製の宝石をスプーンですくい、次の子へ。5人が回したら、5人目の子は別の空のお椀に入れる。お椀とプラスチック製の宝石は机に乗っている。何週もやるが、途中で辞めの合図があったらおしまいとなる。

※去年のお手玉リレーとほぼ同じ。

課題2.蛇ゲーム

宝石ゲームと同じ5人で引き続き実施。指示を出す先生は変わること。パターンブロックであらかじめ蛇の頭部が作られてあり、胴体部分をみんなで作る。順番が指定されており、宝石ゲームで先頭だった子の次の順番（2番の子）からスタート。その次の子がパターンブロックを置く際にはとくに合図もなく、グループで順番を守って取り組んでいく。

課題3.しりとり

はじめに「ここからはお話をしてもよいです。」と指示がある。内容はしりとり。捻りもなく、所謂ただのしりとり。蛇ゲームでいちばん最初にパターンブロックを置いた子の次の順番（3番の子）からスタート。お話をしてもよい。何週もやるが、途中でやめの合図があったらおしまいとなる。

親子活動 行動観察を終えた受験生が保護者の待機場所に戻ったらすぐに開始

親子が合流したら、すぐに面接会場に誘導される。ブースは階を分けていくつかあるようで、受験番号によって振り分けられる模様。1階面接室に誘導されたスクール会員は、隣同士の面接室があるのを確認している。面接室Aに受験番号1、面接室Bに受験番号2が入室。以降は受験番号の順番に従って面接をしていく。面接室に入室すると、例年の如く衝立があるのを確認。例年と異なり、入室後すぐに子どもへの質疑応答ではなく、一旦母子が離れてから質問開始（と言っても衝立が挟まれている程度なので会話はよく聞こえる）。

親子活動-受験生前半

面接室に入って衝立のところまで進んでからすぐに立ったまま質問を受ける。

・朝ごはんは何を食べましたか？（他にもありそうだが、質問は1問のみ）

その後、座って親子活動の説明、先生と実際にやってみる時間に。

親子活動-保護者前半

保護者面接は座って実施。アンケートに書いた2つの質問（④・⑤）について、内容確認と、その時お子さまにどのようなお声がけをしますか？との質問がされる。例年にあった学校案内からの質問は無かったとのこと。

親子活動-受験生・保護者後半

親子活動の内容は関連するもの同士をクレパスで結ぶというペーパーのような遊び。描かれている絵は、用紙の上側に5つ、下側に5つ。雨傘、てるてる坊主、太陽、ひまわり、帽子、海、かきごおり、男の子などが描かれている。これらを関連するもの同士線で結ぶ。用意されているクレパスは黒色。先が短く大量にケースの中に入っている（使い古しのものと容易にわかる）。先生と受験生の2人ではじめにやっているが、なぜその2つを結んだのかはとくに詳しく聞かれず。先生は相槌やひとり言のように思ったことを言っている感じで、受験生は何か言った方がよいかと困った。2つ程度線を結んだら、今度は保護者とおこなう時間になる。保護者が衝立の向こうの受験生の方へ移動し、まずは子どもから保護者にやり方の説明をする（おそらくこの時点から既に持ち時間が始まっている）。遊びはじめてから1分半くらいで終了。

※聞き取り調査参加の全員が答えたわけではないが、親子活動へ移る前の段階で子どもたちだけで図書室へ誘導され、静かに何もしないで待つだけの時間があった。俗に言う、竹早名物（図書室トラップ）。